

第 27 回 防災カフェを開催しました。



シリーズ“災害とライフライン”

『電話はどうなるの？』

ゲスト：部門長 宮下 幹男 氏
(NTTフィールドテクノ 関西支店 滋賀営業所)

ネットワーク部長 小島 宏之 氏
(ドコモCS関西 滋賀支店)

日時：2018年8月22日(水) 18:30~20:30

場所：滋賀県危機管理センター1階 エントランスホール

ファシリテータ：担当課長 東 昭彦 氏
(NTTフィールドテクノ 関西支店 滋賀営業所 災害対策室)

大規模災害が発生して電話による連絡が取りにくい時、災害伝言サービスなどが役に立ちます。「自分の状況を知らせる」、「被災地の情報を知る」ことができる災害伝言サービスなどのお話を聴き、万が一のときの安否確認方法を体験しました。

日本の電信電話事業は、逓信省による1869年東京-横浜間での電報取り扱いに始まりました。1890年に東京-横浜間で、3年後に大阪-神戸間で電話が開通しました。1952年日本電信電話公社が発足、電話機としては1962年に黒電話、1979年に自動車電話が登場し、携帯電話へと発展していきます。1985年には日本電信電話株式会社が設立され、1992年にNTT



ゲスト：宮下 幹男 さん

ドコモが営業を開始し、1999年にはNTT東西とコミュニケーションに分割されました。NTT西日本の加入者数は1999年に2920万、2001年に光サービスを開始し2017年にはアナログ式電話が880万、光サービスが900万で光の方が多くなりました。

電話設備は、交換機とその間のケーブルからできていて、それに私たちの家庭や社会などの電話機が電柱や地下の管を使って金属や光ケーブルによって繋がっています。滋賀県内に電柱が10万本、交換機は大小合わせて92(ビル)あるそうです。



ファシリテータ：東 昭彦 さん

災害対策では、災害が起きるたびにその時代にあったサービスを開発してきたということで、1995年の阪神・淡路大震災で災害用伝言ダイヤル（電話によりメッセージを録音・再生する声の伝言板）、2003年の宮城県沖地震で災害用ブロードバンド伝言板（インターネット上に文字でメッセージを登録・確認できる伝言板）が使えるようになりました。

NTT 西日本では、災害対策基本方針として①ネットワークの信頼性の向上、②サービスの早期復旧、③重要通信の確保を災害対策の3本柱としているそうです。

2011年3月11日14:46に発生した東日本大震災では、NTT 東日本支援のために15:20に災害対策本部設置、15:27に災害用ブロードバンド伝言板を、17:47に災害用伝言ダイヤルを提供、23:00に移動電源車が、翌12日ポータブル衛星装置などが被災地に向かいました。4月24日までに電柱696本を新設、ケーブルを64km敷設し87の固定配線区間を復旧したそうです。どこかが被災しても他のルートを使って伝送できるように全国の中継伝送ルートの多重化、自治体と連携しての防災訓練、陸上自衛隊などとの協定により社員や物資の輸送ができるようにしているそうです。避難所に指定されている所にはいつでも特設公衆電話が設置できるように準備しています。

災害が起きると一般の通話を制限して110・119・118番を最優先、災害対応に当たる機関は優先的に電話が繋がるようになっていて、公衆電話は無料化するということでした。



NTT 林 竜平さんに『災害用伝言ダイヤル』の使い方を教わりました。災害時でも『災害用伝言ダイヤル』は制限されません。

NTT ドコモでは、①システムとしての信頼性向上、②重要通信の確保、③通信サービスの早期復旧を災害対策3原則としています。東日本大震災での教訓を生かし、広域災害や停電時に人口密集地の通信を確保できる災害時専用の大ゾーン基地局の設置、停電時にも災害対応をする行政機関をカバーする基地局の電源の確保、ネットワークが途切れた際の災害対策車両や設備の増配備、避難所での充電サービスなどを行っているということでした。



ゲスト：小島 宏之 さん

また、2015年から南海トラフ巨大地震に備えた災害対策として近畿地方の太平洋や瀬戸内海沿岸の35の基地局を中ゾーン基地局にして災害時の通信の確保をおこないます。中ゾーン基地局では伝送路の二重化、通信用補助電源の長時間化をおこない、遠隔操作によるエリアコントロールも実施するというのです。さらに2016年からは災害拠点病院の近くの中ゾーン基地局化を進め、今後はもっと増やそうとしているそうです。そして、自治体・海上保安庁・陸上自衛隊・日本郵政など社外の機関との連携もすすめているということでした。

災害時のサービスとしてはエリアメール（気象庁発の地震速報、津波警報、気象の特別警報や国や地方公共団体発の災害・避難情報を受信できるもので5か国語ややさしい日本語に対応）、災害用伝言板（携帯電話から自分の安否を登録し、ネットを通じて他の携帯電話やパソコンから確認できる災害時に提供されるサービス）、災害用音声お届けサービス（携帯電話から安否を伝えたい人の携帯電話番号を入力すると30秒間の音声メッセージを送信できる災害時に提供されるサービス）があります。これらサービスは災害時の回線混雑の影響を受けにくいデータ通信（パケット通信）を利用しています。

NTT西日本もNTTドコモの災害時のサービスも、毎月1日と15日に体験できるので、ぜひ試してほしいということでした。

参加者からは多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問：災害時に通話は不通でもLINEできたが、通話もLINEのようにできないのですか。

答：LINEはデータ通信を使っているので、災害時でも比較的繋がりやすいと考えます。携帯電話の音声通信は災害時には規制がかかり繋がりにくくなりますので、音声通信よりメールなどのデータ通信のご利用をおすすめします。

問：公衆電話の撤去が進んでいるが今後どうなるのですか？

答：公衆電話はほとんど使われず営業的には赤字ですが、災害やその後の復旧に備えて、設置場所や数の最低限度が決められています。それを下回ることはありません。

宮下さん、小島さん、東さん、林さん、参加者のみなさん、ありがとうございました。カフェ・プラスに協力いただいた県立石山高校の皆さん、ありがとうございました。